

八十二銀行池田支店の移転について

2月14日、議会全員協議会が開かれ町から八十二銀行池田支店の松川村への移転について経過報告があり、協議しました。その概要は次のとおりです。

【町の説明(要旨)】

- 八十二銀行から昨年9月に池田支店を松川村に移したいとの話があった。町は議会に報告、意見聴取を行い、銀行の存続を求め協議を重ねてきたが、次の結論になった。
池田支店の現在地での窓口業務は本年5月12日までとし、それ以降の窓口業務は松川村の「八十二銀行あづみ松川支店」内で行う。

- 八十二銀行は移転の理由として、池田支店の窓口業務が少ない事、建物が古い事などを上げ、あらゆるリスクを考慮し、決断した。

- 池田支店の現在地にあるATM(現金自動預払機)は来年の3月末まで稼働させる予定である。但し、池田支店の土地などが売却された場合はこの限りではない。

【議会の意見】

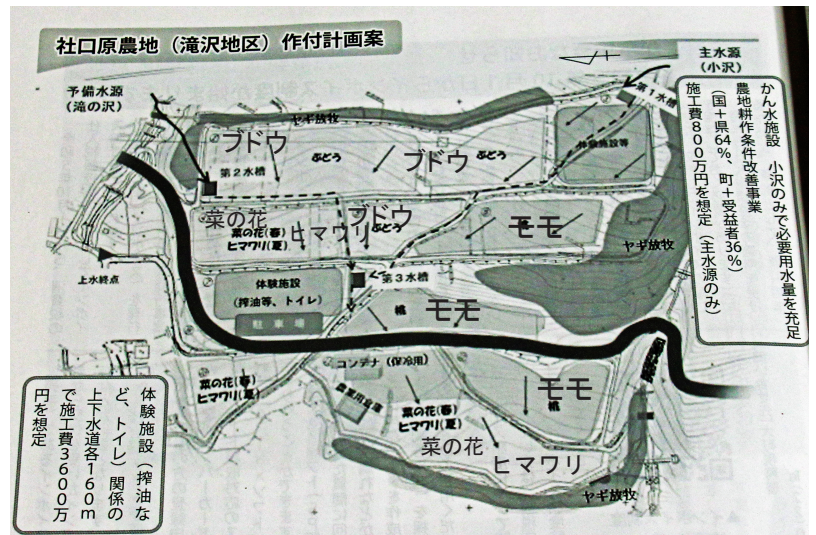
- もっと早く町と議会とで力を合わせとり組むべきだった。
- 移転にともない町民への銀行からのサービスが低下しないように町と銀行とで「覚え書」を締結すべき。
- 来年3月以降のATMの設置場所は協議していくべき。
例：地域交流センターなど

【町の回答】

- 「覚え書」作成に向けとり組む。ATM設置場所も協議していく。

～社口原での農業振興策を考える～

昨年の11月、町農業振興協議会から町農業振興の中間答申が町に提出されました。このなかで、社口原(滝沢地区)の栽培種として、ブドウ・モモ・菜の花・ヒマワリが適当として、下図のような作付計画案が示されました。この計画について考えてみました。



○ブドウ・モモ栽培に使うネオニコチノイド系農薬の影響は。試験栽培で適正種(ガーデンハックルベリーなど)の検討を。

ブドウ・モモの栽培では農薬使用が必須とされています。長野県のブドウ・モモの農薬使用防除暦のなかにはネオニコチノイド系農薬が2剤(アドマイヤー水和剤、モスビラン顆粒水溶剤)含まれています。

ネオニコチノイド系農薬は水に溶けて土壌や地下水に広がり、土壌中では数カ月から数年間も効力が持続すると言われていています。また、同剤は人間の脳と神経の発達に悪影響を及ぼすと言う研究報告があり、ヨーロッパ・韓国などでは規制強化がなされています。さかのす

社口原の直下にある坂下地区の方で地下水を飲み水として使用されている方がおり、ネオニコチノイド系農薬が地下水(飲み水)に混入する恐れは否定できないと思われます。飲み水として利用されている家庭に納得いただける町の対応が必要です。

社口原での栽培適種は農薬を使わず、獣害被害されにくい作物の検討が必要です。その一つとして「ガーデンハックルベリー」があげられます。同種は成熟まで毒素(ソラニン)があるため獣害が少なく、無農薬で栽培が可能と言われています。また、目の疲労回復に効果があるとも言われる「アントシアニン」が多く含まれ、ジャムに加工すれば健康食品として需要が期待されます。

ガーデンハックルベリー・菜の花・ヒマワリは社口原で試験栽培を行い、栽培適性を検討するべきと考えます。